



西尾いきものふれあいの里だより

6月号

2026.6.1 発行

さとやま

6月の里といきもの



今年の5月も、後半には気温が30℃に迫る日があり、すでに初夏のような暑さが続き、爽やかな季節は短くなりました。6月には日差しは更に強く、梅雨入り頃には湿度も高まり、蒸し暑くなってきます。

ネイチャーセンター前の2000平方メートルの菖蒲（しょうぶ）園では、美しい**ハナシヨウブ**が満開になります。ハナシヨウブはアヤメ科の多年草で、田んぼエリアで見られる、菖蒲湯に使う、シヨウブ科の多年草**シヨウブ**とは全く別の種類です。シヨウブは小さな花がたくさん集まった一見花とは見えない集合花です。

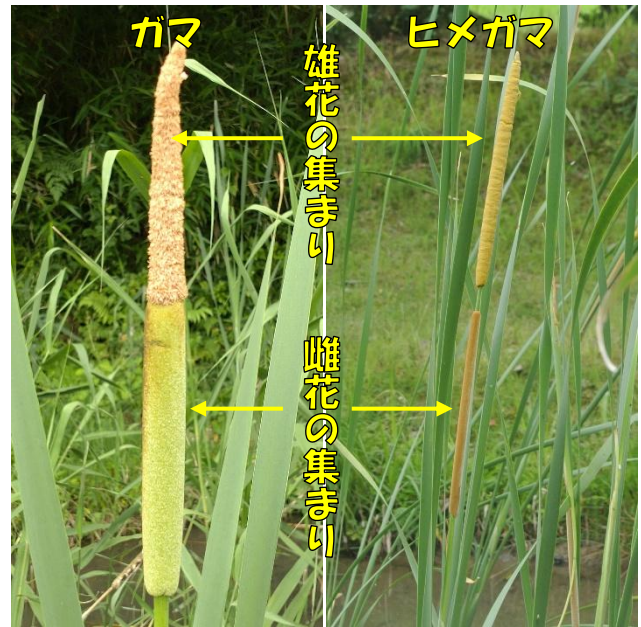
菖蒲池やビオトープの水面には、スイレン科の多年草**ヒツジグサ**の花も見られます。羊の刻（午後2時頃）に花を咲かせることから名が付いたと言われますが、実際は夜花を閉じ、午前10時ごろから咲き始め夕方まで咲いています。朝寝坊なので、別名スイレン（睡蓮）の方がぴったりですね。



菖蒲池やビオトープ、田んぼエリアの水場では、ガマ科の多年草、**ガマ**と**ヒメガマ**の花が見られます。ショウブと同じような集合花ですが雌雄異花です。1本の花穂に、雄花と雌花が集まってつきます。ヒメガマは、雄花と雌花の集まりの間にすき間があり、ガマはありません。雌花は秋にはガマの穂になります。

ビオトープ上の池にはドクダミ科の多年草、**ハンゲショウ**が咲きます。名の由来は、この花が咲く夏至から数えて11日あたりが七十二候の「半夏生（はんげしょう）」だからとか、花穂の周囲の葉が一部を残して白く変色するため、「半化粧」からだとか言われています。白くなった葉は、花が終わると緑色に戻っていきます。

ところで、菖蒲池やビオトープでよく見られる白い小さな花は、オモダカ科の多年草、**ナガバオモダカ**という要注意外来生物（外来生物法の規制対象ではないが、生態系に悪影響を及ぼしうることから適切な取り扱いを求められている生物）です。日本では雌株しかないため、種子で増えることはありませんが、水中で枝を伸ばして増えます。里ではときどき駆除していますが、全て取り去ることはできません。



蒸し暑いときには、こんな涼し気な水辺の花たちを楽しんで下さい。

6月はこんないきものも見られます

里全体の湿った日陰では、ドクダミ科の多年草、**ドクダミ**が咲きます。中心は集合花で、花卉のように見えるものは、葉が変化した苞葉（ほうよう）です。独特のにおいがあり、民間薬として、多くの薬効があることから、十薬（じゅうやく）とも呼ばれています。

センター裏のエアコンの室外機の近くには絶滅が危惧されているオオバコ科の多年草、**キクガラクサ**が花をつけます。葉がキクの葉に似て、唐草模様を思わせることが名の由来です。

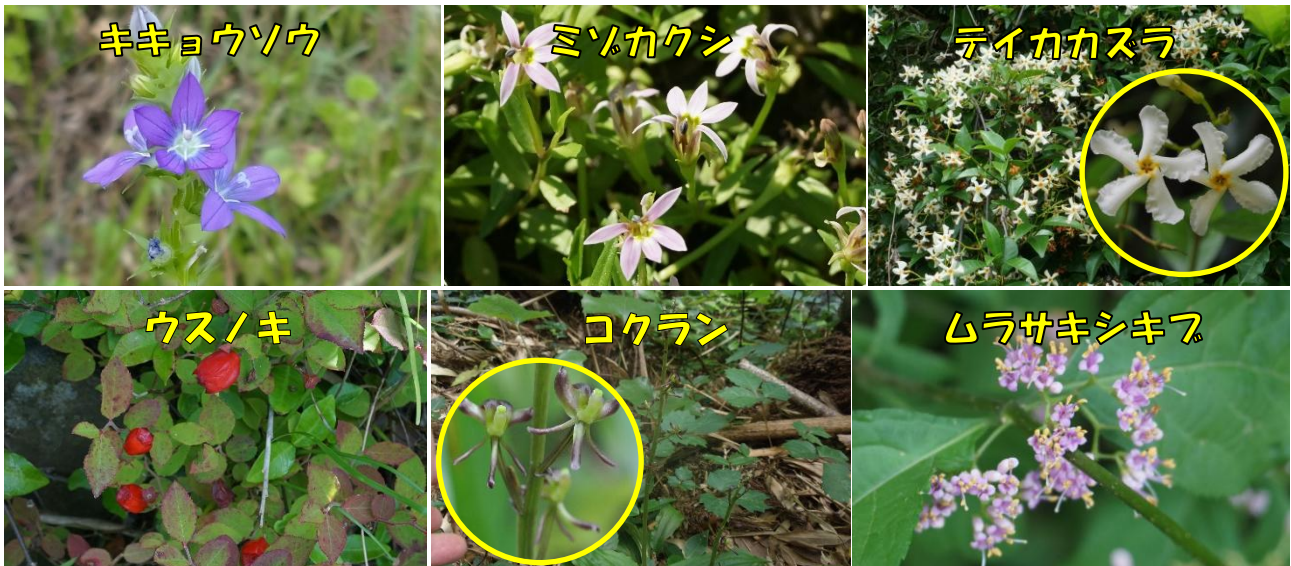
センター裏や、里山エリア上の道では、ツツジ科の**シャシャンボ**の釣り鐘型のかわいい花が咲きます。



田んぼエリアなどでは、キキョウ科の1年草、**キキョウソウ**の青紫色の花が咲いています。アメリカ原産の外来種で、**キキョウ**に似た小さな花が、茎の下から上に順に咲いていきます。

また、変わった形のキキョウ科の多年草、**ミゾカクシ**の花もたくさん咲きます。田のあぜや道端の溝（みぞ）など、湿った場所に好んで生えるため、まるでその溝を覆い隠すように繁ることから「ミゾカクシ」と呼ばれるようになりました。

里のあちこちで見られる、キョウチクトウ科のつる性常緑低木の**テイカカズラ**は、樹木などに絡みついて、多数のプロペラのような形の花をつけます。藤原定家が、恋の執心で蔦葛（かずら）になり、式子内親王の墓に絡みついたという伝説にちなんで名が付けました。



トンボの里付近や万灯山では、早春に花をつけたツツジ科の落葉低木**ウスノキ**で、その名の由来である赤い臼の形の実が赤く熟します。この実は食べられます。

トンボの里から万灯山へ向かう道ではラン科の多年草、和蘭の**コクラン**が咲きます。

トンボの里や万灯山エリアでは、秋に紫の実がなるシソ科の落葉低木、**ムラサキシキブ**のかわいい花が見られます。

万灯山エリアの桜並木や野鳥の森では、アジサイ科の**イワガラミ**の白い花が、絡みついた木の上で咲いています。この花は、アジサイによく似ていますが、集合花の外側の装飾花の、花卉のように見える大きながく片の状態が違います。比べてみて下さい。

また長円寺では、強い芳香を放つ、アオイ科の落葉高木、**ボダイジュ**の花を見ることができます。花は、葉のようなへら型の苞（ほう）から伸びた花柄に、いくつかの花をつける、変わった咲き方です。釈迦が悟りを開いた菩提樹は、熱帯産のインドボダイジュで、温帯では育たないため、中国で葉の形が似ているこの植物を菩提樹としたそうです。

梅雨の晴れ間には、花の蜜を求めて、**モンキアゲハ**などのアゲハチョウ科のなかまたちが飛び交います。



雨の季節ですが、こんないきものを探して、里を散策してみませんか。

5月の行事紹介



5月17日(日)に「棚田でお米を作ろうⅠ(田植え)」を開催しました。講師から苗の植え方を教えてもらい、みんなで棚田に入りました。初めは歩きにくかったけれど、田植えの目印の線に沿って苗を3~4本ずつつまんで植えることができました。作業後は泥だらけになった体を、棚田の横を流れる冷たい小川でさっぱり洗い流しました。

次回の秋の収穫が楽しみです。おいしいお米ができることを期待して、帰りました。ぜひ次回も参加してね！

6月の行事予定

21日(日)	里山の植物を使って作って遊ばし よう (材料費:100円)	20名	AM9:30~11:30	河江喜久代
--------	-------------------------------------	-----	--------------	-------

内容 ~里山を歩いて、葉・花・つるなどを集めて作って遊ばしましょう。笛・おひなさま・ぞうり・花かんむりなどを作ります。(大人の方だけの参加 大歓迎です！)

28日(日)	初夏のキノコ観察会	20名	AM9:30~11:30	石川まゆみ
--------	-----------	-----	--------------	-------

内容 ~意外と身近に見つかるきのこや山野草、いきものふれあいの里で探してみよう！あなたは何種類みつけることができるかな？

7月の行事予定

18日(土) 19日(日)	夏の昆虫を探そう	各日 30名	AM9:30~11:30	当園職員
------------------	----------	-----------	--------------	------

内容 ~里山の自然の中を散策しながら、どんな昆虫がいるか探します。カブトムシやクワガタなどの昆虫の探し方やつかみ方を実践します。

トンボやアゲハチョウなどを、タモを使って採取し、観察後に自然に戻します。

※両日とも受付開始は6月27日(土)からで、両日の申込みはできません。

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が4名以下の場合には開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。小さいお子さまには、目を配るのに十分な保護者の同伴をしてください。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課